



(題字 高田 昴 筆)

発行所／日本産業衛生学会関東地方会事務局 〒144-8535 大田区西蒲田 5-23-22 (<http://jsokant.umin.jp/>)

東京工科大学医療保健学部産業保健実践研究センター内 発行責任者／五十嵐千代 [jsok\\_kanto@sanei.or.jp](mailto:jsok_kanto@sanei.or.jp)

能登地震で犠牲になられた方へのご冥福をお祈りしますとともに、  
被災された方々へのお見舞いと支援されている方々への敬意を表します



職場の新たな化学物質管理のためのポータルサイト「ケミサポ」

<https://cheminfo.johas.go.jp>

写真提供: 労働安全衛生総合研究所

## 関東地方会 REBORN

須賀 万智 (日本産業衛生学会 理事 東京慈恵会医科大学 教授)



五十嵐地方会長のものと新たな関東地方会がスタートしてから、まもなく1年を迎える。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、学会・会議の対面開催が復活したり、海外出張が再開されたり、世の中がそろそろ変わり出そうとする中での船出であり、今後の地方会の進め方について見直すべき事柄が山ほどあった。理事や幹事、4部会の先生方とさまざまな場で話し合い、時に夜中までオンラインミーティングで意見交換しながら、新たなカタチを模索してきたように感じる。

先々代の地方会長の時代に地方会事務局の運営に携わる機会を得たが、当時はデジタル化が進ん

でおらず、事務局担当者の業務負担が非常に大きかった。幹事会や例会を開催するたびに、会場を手配し、案内状を郵送し、資料を印刷し、交通費を用意し、何もかもが手作業であった。五十嵐地方会会長が事務局業務を外部業者に委託すると決断されたことは必然であり、地方会のサステナビリティの観点から必要不可欠であった。

来る2024年度から、年4回の地方会例会に代わり、年1回の地方会学会を開催することが決定した。地方会学会をどのようなものにしていけばよいか、準備委員会を立ち上げ、議論が始められたところである。関東地方会の改革はこれからまだまだ続いていく。新たに起こる変化に対して賛成の意見ばかりでないと思うが、一歩ずつ丁寧に話し合いを重ねながら、皆のちからでよりよい地方会を作りあげていきたい。

## 特集記事 トラックドライバーの不規則勤務の健康影響と対策の方向性



松元 俊  
(労働安全衛生  
総合研究所)

### 1. 運輸業に多い過労死

労災補償状況より、脳・心臓疾患による労災認定(いわゆる過労死)の多い業種・職種は「道路貨物運送業」かつ「自動車運転従事者」であり、トラックドライバーの過労死認定数が多いことが明らかになっている<sup>1)</sup>。トラックドライバーでは、建設業、医師等と並んで、「働き方改革関連法案」における時間外労働(年間960時間)の上限規制の適用が2024年4月から始まるのにもかかわらず、過労死等の主たる認定基準でもある長時間労働をする者が未だに多いことがうかがわれる。労働基準関係法令・運輸業における改善基準告示の違反も、長時間労働によるものがバスやタクシーに比べてトラックの事業場に多い<sup>2)</sup>。長時間労働(週40時間以下に対して55時間以上(月60時間の時間外労働に相当))では冠状動脈性心疾患の発症リスクが1.12倍、脳卒中の発症リスクが1.21倍高いことがコホート研究を主としたシステマティック・レビューとメタアナリシスの結果より示されている<sup>3)</sup>。

### 2. 深夜勤務・交替制勤務の健康影響

過労死の発生件数だけでなく雇用者100万人当たりの発生率を見ても、2010年から5年分の解析において「建設業」で7.9件、「医療、福祉」で1.5件、全体平均で6.0件であったのに比べて「運輸業、郵便業」で28.3件と、時間外労働の上限規制の適用が始まる業種間で大きく異なっていた<sup>4)</sup>。この差は、長時間労働以外の労働負荷の影響によるものかもしれない。過労死したトラックドライバーの働き方の特徴としては、時間外労働時間が長いことはもとより交替制勤務や深夜勤務を含む不規則勤務が多く見られた<sup>4)</sup>。コホート研究を主としたシステマティック・レビューとメタアナリシスの結果では、夜勤者や交替制勤務者は日勤者に比べて心筋梗塞のリスクが1.23倍、虚血性脳卒中のリスクが1.05倍であった<sup>5)</sup>。また、横断研究を主とした観察研究のシステマティック・レビューとメタアナリシスの結果では、脳・心臓疾患の

原因となる高血圧症の発症リスクは、非不規則勤務者と比較して不規則勤務者のオッズ比が1.31となることが示された<sup>6)</sup>。

### 3. トラックドライバーの不規則勤務と健康

過労死事例において、不規則勤務はバス運転者や医師でも多く見られたものの<sup>4)</sup>、トラックドライバーは1週間もの長期間拘束される勤務(いわゆる長距離)や、出勤時刻が夜間・早朝かつ毎日変化するような勤務(いわゆる地場)で、さらに不規則な働き方を行っていたことが特徴的であった<sup>7)</sup>。日本のトラックドライバーを対象に行ったアンケート調査では、①働き方(時間外労働時間、夜勤・早朝勤務回数、運行形態)、②休み方(睡眠時間と質、休日数と過ごし方)、③運転労働の負担感と、脳・心臓疾患及びそのリスク要因である高血圧症、肥満、高脂血症、糖尿病の既往歴との関連を見たところ、運行形態と既往症に有意な関連が示された<sup>8)</sup>。2泊以上の長距離運行と肥満、地場では夜間早朝運行と高血圧症が関連することに加えて、夜間運転の負担が重いと感じているドライバーと脂質異常症が関連することが明らかになった。この横断調査では時間外労働時間や夜勤回数のような量的な指標と既往症の間に関連は見られず、毎日変化する労働時間や出勤時刻の不規則な勤務の影響までは捉えきれなかった。

### 4. 不規則勤務と血圧、動脈硬化の関連

そこで、次に1か月間の観察調査から、脳・心臓疾患のリスク指標で毎日の測定が可能な血圧(長距離と地場)と動脈硬化(地場のみ)を悪化させる不規則勤務条件を明らかにすることを試みた。不規則な勤務を行う長距離トラックドライバー(4事業所67人、平均年齢51.7歳)と地場トラックドライバー(7事業所60人、平均年齢51.0歳)に対して、1人につき休日を含む30日間連続の自宅睡眠測定(眠りSCAN NN-1520、パラマウントベッド社製)と、勤務日の出勤時と退勤時に血圧および動脈硬化指標の測定(長距離:CHD701、シチズン社製、地場:NAS-1000、日本光電社製)を行った。労働時間等は運転日報による客観的な記録を解析に用いた。マルチレベル分析による統計解析の結果、長距離トラックドライバーでは勤務日の血圧の上昇には、ひと月あたりの平均離

床回数が多いこと、拘束日数の長い勤務、起床時刻が早い(早朝に近づく)勤務が関連していた<sup>9)</sup>。地場トラックドライバーでは勤務日の血圧および動脈硬化を上昇させる要因は、ひと月あたりの平均出発時刻が遅い(勤務が夜間に近づく)こと、起床時刻が早い(早朝に近づく)ことであった。また、休日明けの勤務と出発時刻が遅い勤務で血圧が上昇し、ひと月あたりの出発時刻差の平均値が大きいほど動脈硬化指標が高いという関連が見られた<sup>10)</sup>。

## 5. 不規則勤務スケジュールの改善の方向性

不規則勤務を行うトラックドライバーを対象とした観察調査の結果、血圧の上昇には夜間・早朝勤務に伴う不規則な出発時刻や起床時刻、離床回数のような睡眠の質が関連することが示された。また、勤務時間帯が頻繁に変化する地場トラックドライバーでは、出発時刻差や前日が休日などの毎日の不規則な勤務と、勤務に伴う睡眠時間の変動が血圧上昇や動脈硬化指標の悪化と関連する様子が見られた。

トラックドライバーの健康管理には、長時間労働の抑制のみならず、夜間・早朝勤務回数の制限や、出発時刻などの勤務時間の変動が小さくなるような日々の勤務スケジュール調整が重要であることが確認された。今後は、さらにトラックドライバーの個々の勤務スケジュールと睡眠に対する介入の効果を検証し、それぞれの職場にあった改善を続けていく必要がある。

## 参考文献

- 1) 厚生労働省. 脳・心臓疾患に関する事案の労災補償状況. 令和4年度「過労死等の労災補償状況」2023年6月公開.  
<https://www.mhlw.go.jp/content/11402000/001113801.pdf>
- 2) 厚生労働省. 自動車運転者を使用する事業場に対する監督指導、送検等の状況(令和4年). 2023年7月公開.  
<https://www.mhlw.go.jp/content/11202000/001126501.pdf>
- 3) Virtanen M, Kivimäki M. Long working hours and risk of cardiovascular disease. *Curr Cardiol Rep*. 2018; 20(11): 123.
- 4) 松元 俊ほか. 脳・心臓疾患による労災認定事案の分析に関する研究. 過労死等の実態解明と防止対策に関する総合的な労働安全衛生研究—平成28年度 総括・分担研究報告書 2017: 13-22.
- 5) Vyas MV, *et al*. Shift work and vascular events: systematic review and meta-analysis. *BMJ*. 2012; 345: e4800.
- 6) Manohar S, *et al*. Associations of rotational shift work and night shift status with hypertension: a systematic review and meta-analysis. *J Hypertens* 2017; 35(10): 1929-1937.
- 7) 酒井一博, 佐々木 司. 運輸業・郵便業における過労死(脳・心臓疾患)の予測及び防止を目的とした資料解析に関する研究. 過労死等の実態解明と防止対策に関する総合的な労働安全衛生研究—平成29年度 総括・分担研究報告書. 2018: 102-129.
- 8) 松元 俊ほか. トラックドライバーの健康障害と過労状態に関連する労働生活要因の検討. *産業衛生学雑誌* 2022; 64(1): 1-11.
- 9) 松元 俊ほか. 不規則勤務トラックドライバーの労働睡眠条件と職場での血圧の関連. 日本睡眠学会第47回定期学術集会, プログラム・抄録集 2022: 229.
- 10) 松元 俊. 不規則勤務における安全健康管理の要点～トラックドライバーの観察調査結果より～. 第82回全国産業安全衛生大会特別報告, 労働衛生管理活動分科会研究発表集 2023:26-28.



## 産業保健実践活動報告



加藤憲忠  
(富士電機)

富士電機は、関東大震災が起きた1923年9月1日に、「古河電気工業(株)」とドイツの電気メーカー「シーメンス」の合弁会社として設立され、今年で創立100周年を迎えた。筆者は2010年1月に川崎工場の専属産業医として入社し、2014年4月に東京の大崎にある本社に異動し、現在に至っている。

今回は産業保健実践活動として、メンタルヘルス不調者の職場復帰支援について紹介させていただく。ご多分に洩れず、以前は弊社でもメンタルヘルス不調者の職場復帰支援には様々な課題があった。そのため全国の事業場の産業医、産業保健スタッフからの要望も踏まえて2012年に全社共通の職場復帰支援プログラムである「従業員支援プログラム」を作成した。さらに本社地区の事情も加味して、「本社版従業員支援プログラム」を作成し、以後はその制度に沿って、職場復帰支援を行っている。

本プログラムは概ね2週間の「通勤・入社訓練」と最大1カ月の「トライアル勤務(短縮勤務)」から成り立っている。段階的に負荷を上げていき、体調を崩すことなくクリアすることができれば次のステップに進める仕組みとなっており、回復具合に応じた頑張りが適切に評価される。職場復帰に関わる関係者が、「富士電機ではこういうルールで職場復帰を進めていくのだ」という同じイメージを共有し、進めていくことが大切であるため、主治医にも弊社の制度を理解いただけるように、制度を簡潔にまとめたA4版1枚の資料を作成しており、本人経由で主治医に提供している。そのため産業医はもちろんのこと、上司や人事から見ても適切なタイミングで主治医から「復職可」の診断書が出るようになった。職場復帰準備性が十分高まり、受け入れ側の準備が整った段階での復帰となるため、現在では、職場復帰後1年以内の再休職はほとんどなくなった。これからも本プログラムに基づいて、地道に職場復帰支援を行っていきたいと考えている。

## 関東地方会例会プログラム一覧

### 第301回例会・第65回見学会プログラム

当番幹事: 岩澤聡子(防衛医科大学校)

開催期間: 2023年9月8日(金)、9日(土)

会場: 所沢市民文化センター ミューズ管理棟

#### 第65回見学会 9月8日(金)

- ① 株式会社東ハト関東工場
- ② コニカミノルタテクノプロダクト株式会社
- ③ 興研株式会社 先進技術センター

#### 第301回例会 9月9日(土)

テーマ: 職域における有害業務管理

- ① 防衛医学と疫学  
櫻井 裕 (防衛医科大学校)
- ② 熱中症 集団災害時の対応  
清住哲郎 (防衛医科大学校)
- ③ 潜水環境や減圧症について  
杉浦崇夫 (海上自衛隊)
- ④ 産業衛生活動に必要な最新の法令改正情報  
内田和彦  
(内田労働衛生コンサルタント事務所)

### 第302回例会プログラム

当番幹事: 日本産業衛生学会関東地方会事務局

開催日時: 2023年12月2日(土)

開催方法: ライブ配信

(基調講演のみオンデマンド配信あり 2024年2月末まで)

基調講演: 「産業衛生の学術と実践の未来」

堤 明純(北里大学医学部)

#### シンポジウム

テーマ: 産業衛生の学術と実践の未来～関東地方

会学会創設と今後の学会発展に向けて

関東産業医部会: 福本正勝

(株式会社・OH研究所)

関東産業保健看護部会: 帆苺なおみ

(サンデン株式会社)

関東産業衛生技術部会: 齊藤宏之

(労働安全衛生総合研究所)

関東産業歯科保健部会: 品田佳世子

(東京医科歯科大学)

第1回地方会学会大会長: 浜崎 景

(群馬大学)

## 第301回 関東地方会例会 及び 第65回 見学会 報告



岩澤聡子  
(防衛医科大学校)

2023年9月8日・9日、防衛医科大学校のある埼玉県所沢市において、第301回関東地方会例会・第65回見学会を開催した。見学会を受け入れていただいた、株式会社東ハト関東工場、コニカミノルタテクノプロダクト株式会社、興研株式会社先進技術センターの各ご担当者様にこの場を借りて御礼申し上げます。例会は、現地会場とZoomウェビナーによるハイブリッド開催とした。現地では約120人、WEBでは50人を超える参加者があった。

本例会は「職域における有害業務管理」をメインテーマに掲げ、衛生学公衆衛生学講座 角田正史先生の座長の下、「防衛医大らしいプログラム」ということで、特性を多く盛り込んだ構成とした。まず、講演に先立ち、関東地方会会長 五十嵐千代先生より開会のご挨拶をいただいた。

講演①として、「防衛医学と疫学」では前副校長の櫻井 裕先生から、防衛医学とは自衛隊という集団の中で発生する様々な健康事象に対応するため医学知識や技能を集約した分野であり、欧米では軍隊という集団における産業医学とも考えられていること、および、海軍の軍医であった高木兼寛先生の栄養疫学研究についてご説明いただいた。

次に、講演②として「熱中症 集団災害時の対応」では、救急医学講座の清住哲郎先生から、救急医の立場から、発生現場での初期の積極的冷却について、その重要性をご説明いただいた。また、海上自衛隊医官でのご経験から、災害対応の基本原則、同時多発する時、『スイッチを入れて CSCATTT (Command and Control (指揮と連携)、Safety (安全確保)、Communication (情報収集伝達)、Assessment (評価)、Triage (トリアージ)、Transport (搬送)、Treatment (治療)のそれぞれの頭文字)』、災害発生後にとるべき行動である7つをご教示いただいた。

さらに、講演③として「潜水環境や減圧症について」では、海上自衛隊潜水医学実験隊 実験第1部長1等海佐 杉浦崇夫先生より、海上自衛隊の潜水

技術や潜水障害およびその対処法、さらに深海での作業(飽和潜水)における研究についてご説明いただいた。

最後に、講演④として「産業衛生活動に必要な最新の法令改正情報」では、内田労働衛生コンサルタント事務所 所長 内田和彦先生より、第14次労働災害防止計画(エイジフレンドリーガイドライン、メンタルヘルス対策・過重労働対策、化学物質管理、騒音障害防止のためのガイドライン)、在宅勤務における健康管理、両立支援ガイドラインについてご説明いただいた。

結びとして、関東地方会副会長 武林 亨先生より閉会のご挨拶をいただいた。

例会は、時間の都合上、各演者への質疑応答は限られたが、休憩時間を利用して、会場内外で活発な意見交換が行われ、産業現場における問題点を相談する参加者も見られた。また、見学会では、いずれも製造現場の職場巡視を提供することができた。本例会・見学会が、何か一つでも参加者の心に残り、今後の産業保健活動に活かされることを期待したい。

最後に、本例会にご参加いただいた皆様、ご協力いただきました関係者の皆様、そして、地方会事務局の皆様に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。



## 第302回 関東地方会例会報告



中野愛子  
(日立製作所)

2023年12月2日(土)13:00から、第302回例会を開催した。今回はオンラインで開催し、基調講演のみ12月11日からオンデマンドで配信をした。

当日のライブ配信参加者は約80人であった。メインテーマは「産業衛生の学術と実践の未来—関東地方会学会創設と今後の学会発展に向けて—」とした。

今後の日本産業衛生学会および関東地方会の持続的な発展のためには、若手の育成やダイバーシティを考慮し、地方会への積極的な参加や地方会運営への関与の促進などが必要である。さらに、多職種からなる本学会の特色を生かし、職種間で相互に支え連携する地方会運営と、学会員が気兼ねなく研究成果を発表したり、議論したりできる地方会学会の創設について、関東地方会幹事を中心に検討し、2024年度から開催することとなった。今回は、関東地方会学会創設にあたり、基調講演と各部会から開催に向けた抱負や人材育成の方向性などについてご紹介頂き、意見交換をする機会とした。

五十嵐千代地方会長と武林 亨副会長による座長の下、最初に北里大学の堤 明純先生から基調講演「産業衛生の学術と実践の未来」があった。学術研究と実務を結ぶために何が重要かについて、エビデンスギャップの解消のために学会が取り組んでいる事例の紹介や社会実装を念頭に置いた介入研究の重要性について講演があった。

続くシンポジウムでは、各部会から福本正勝先生、帆苅なおみ先生、齊藤宏之先生、品田佳世子先生、第1回関東地方会学会企画運営委員長の浜崎 景先生からそれぞれご講演をいただいた。福本先生は、嘱託産業医の現状と課題、企業の発展と労働者の健康のために産業保健の実学と学術をつなぐことの重要性について述べられた。その上で、関東地方会学会が今までの活動以上に、幅広い「教育」の役割を果たすことや産業保健の発展に寄与することにつながるのとことであった。帆苅先生は、学会参加を阻む要因として、地方では一人職場が多く心理的距離

が遠いこと、育児や介護で遠方開催の学会の参加が難しいこと、学会発表のハードルを高く感じる実践者が多いことなどが述べられた。その上で、関東地方会学会開催によって期待できることとして、関東で開催されることにより参加しやすくなり、身近な人の発表を聴くことで学会発表に挑戦してみる勇気を持って、学会総会や全国協議会への参加のステップにつながるのとことであった。齊藤先生は、産業衛生技術部会の現状および活動内容と資格の認定・更新制度がないこと、交流の場が少ないこと、多職種の集団であるが故に連帯感が低いなどの課題があると述べられた。その上で、産業衛生技術部会は「多職種連携」が実現できる場であるため、関東地方会学会および学会総会や全国協議会での部会イベントへの参加をお願いしたいとのことであった。品田先生は、部会発足からのこれまでの活動を振り返り、職域における歯科保健に関するエビデンスを示すことが必要で、その上で、若手の研究・研修する意欲を育て、学会発表を積極的に行える場として関東地方会学会を活用していくのとことであった。

最後に、浜崎先生からは、第1回関東地方会学会が2024年12月6日(金)・7日(土)にホテルメトロポリタン高崎で開催予定であること、関東地方会の先生方と共に、親近感のある関東地方会独自の学会にしていきたいと述べられた。シンポジウム後のディスカッションでは、聴講の方々からの質問に、演者の先生方から丁寧な回答があり、質疑応答が活発に行われた。

本例会にご参加いただいた皆様、ご登壇をいただきました先生方に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。



基調講演の様子



## 関東産業医部会報告



加藤憲忠  
(富士電機)

2023年度の関東産業医部会研修会を11月11日に慈恵医大で開催した。座長は長谷川将之幹事が務めた。

山本先生は、有害物質の情報をきちんと現場に落としとしてリスクアセスメントしてもらうことが重要と説明された上で、リスクアセスメント対象物健康診断の実施要否・項目の設定など産業医の関与が想定される事例などを解説された。

津田先生は、認定オキュペイショナルハイジニスト(COH)の専門性や現状、将来像などについて説明され、新しい化学物質管理において、COHに期待される役割と多職種との協働に言及された。

佐々木先生は、見直し検討会での検討内容も含めて改訂のポイントを解説された。また騒音の個人ばく露測定の意味や方法について、ご自身の豊富なご経験に基づきお話しされた。

中嶋先生は、長時間労働医師面接指導のポイントを説明された上で、「面接指導実施医師」に求められる役割と産業医、管理者等との連携、医師への面接指導のコツや面接に用いる質問紙票などをご講義された。

いずれのテーマも重要なトピックスであり、盛会に終了した。関東産業医部会では、今後も部会員のニーズに合った研修会を企画する予定である。



### プログラム

- 「実地に則した化学物質管理における産業医の役割」  
山本健也(安衛研)
- 「オキュペイショナルハイジニストから見た産業医の実務/指導/助言・課題・展望」津田洋子(帝京大)
- 「騒音障害防止のためのガイドラインの改訂について」  
佐々木直子(佐々木労働衛生コンサルタント事務所)
- 「医師の過重労働対策 産業医実地臨床」  
中嶋義文(三井記念病院)

## 関東産業保健看護部会報告



瀧本みお  
(日立製作所)

2023年度関東地方会産業保健看護部会主催で「あらたな新興感染症発生時に産業保健スタッフが対応すべきこと～次のパンデミックのため

のシナリオトレーニング～」をテーマとした実地研修会を行った。同様の内容で2日間の開催とし、7月9日は3年ぶりのオンサイトで、7月22日は遠方の参加者の利便性を考えオンライン研修とした。

講師は日本赤十字看護大学の吉川悦子先生にご依頼し、事前課題として研修で使用する事業場での事例について音声付き動画と個人ワークを実施して当日を迎えた。オンサイトは受講者17名とファシリテーター3名、オンラインは受講者28名とファシリテーター7名に参加いただいた。当日はシナリオに沿って新たなパンデミックが起きる過程を想定し、産業保健専門職としての対応について2度のグループワークを通して学びを深めた。前半のグループワークでは新興感染症リスクアセスメントのために必要な情報検索方法、情報収集の視点について、後半のグループワークではリスクアセスメントに基づき、専門職としての適切な助言、具体的な施策までを話し合った。次なるパンデミックに備えて、日頃からの更なる準備の必要性を考えさせられる研修内容であった。

アンケート結果では、参加理由の9割近くが内容・テーマに興味があったからと回答され、グループワークも活発に討論されていた。特にオンサイトは研修開始前から名刺交換が行われ、久しぶりの対面での研修ではグループワークに留まらず情報交換をしている様子が見受けられた。自由記載では吉川先生の説明がわかりやすく、最後のフィードバックでより理解が深まった、内容としても実践的で、専門職としての多角的な視点での判断を学ぶことが出来たという意見を多数いただいた。今後も会員の皆さまの日頃の活動に役立つ研修会を実施していきたいと考える。

## 関東産業衛生技術部会報告



貴志孝洋  
(筑波大学)

2023年8月26日(土)13時から17時にかけて、「効果的な安全教育に向けたDXの推進」と銘打ち、第47回関東産業衛生技術部会研修会(於 帝

京大学板橋キャンパス)を開催した。

Zoomを用いたオンラインと現地でのオンサイト同時開催とし、参加者は合計61名(オンライン44名、オンサイト17名)であった。

スマート保安など、保安や防災においてDX(デジタルトランスフォーメーション)が進められているところ、第14次労働災害防止計画においても、安全衛生対策におけるDXの推進が謳われている。効果的な安全衛生教育にデジタル技術をどのように活用するかをテーマに、4つの講演とVR(仮想現実)を用いた安全衛生教育教材のデモンストレーションを企画した。

まず、小職からは開発に携わった厚生労働省の視聴覚教材や、国内外のデジタル技術を活用した安全衛生教育教材の紹介と開発状況のほか、メタバースなど更なるデジタル技術の活用可能性について講演を行った。次に釘山啓章先生・藤間俊彦先生(AGC)より、VRを活用した安全衛生教育の取り組み事例と課題や今後の発展性について講演があった。次に北條理恵子先生(長岡技科大)より、MR(複合現実)技術を用いた安全管理に係る研究や人間心理が安全衛生に与える影響など幅広い観点からの講演があった。

講演後の総合討論に加え、VRのデモンストレーション時にも意見交換を行い、デジタル技術を取り入れたハイブリッドな安全教育手法などについての意見が得られた。

ご多忙の折、多数の参加及び忌憚のない討論をいただいたことに深謝する。



## 関東産業歯科保健部会報告



品田佳世子  
(東京医歯大)

2023年10月27日(金)～29日(日)に甲府で開催された第33回日本産業衛生学会全国協議会での歯科保健部会関連の講演について報告する。

報告する。

産業歯科保健部会研修会では「超高齢社会における新しい産業歯科保健の戦略」をテーマに、飯島勝矢先生(東大)より「フレイル・オーラルフレイル予防によるわが国の健康長寿戦略」の講演があり、100人以上の参加者で会場がほぼ満席となった。オーラルフレイルの重要性、今後に向けて周知徹底のためのステートメント作成状況等のわかりやすい説明があった。聴講者には産業医や産業保健看護職等も多く、質疑応答の際に、オーラルフレイルを医科の事前質問票に取り入れる等の提案もあった。

産業歯科保健フォーラム「多様性の時代にむけてのアプローチ 産業歯科保健の過去・現在そして未来への展望」(参加者約70人)では、「多くの事業所を有する企業の歯科健診の実施状況について」吉野浩一先生(横浜銀行)、「産業歯科保健の今と将来展望～働くすべての年代の人へ向けた健康の保持増進サポートプログラムの実践～」伊藤博明先生(日本原子力研究開発機構)、「石川県歯科医師会における産業歯科保健のとりくみ」江尻重文先生(石川県歯科医師会)の講演があった。歯科関係者のみならず産業医、産業保健看護職の参加が得られ、活発な質疑応答がなされた。





## 関東地方会研究会報告

### 産業保健東洋医学研究会



田中 完  
(神栖産業医トレーニングセンター)

2023年9月5日に第6回産業保健東洋医学研究会を開催した。

当研究会は、東洋医学(漢方、鍼灸、薬膳など)の知見を産業保健の諸問題(メンタルヘルス、疲労・プレゼンティーイズム、不定愁訴、筋骨格系愁訴など)に適用・応用することを目的とした研究会で、顧問には日本東洋医学会の前会長である伊藤 隆先生にご就任いただいている。

今回は薬膳をテーマとした。これは、ともすると栄養素とカロリーだけの話になりがちな保健指導(栄養指導)のマンネリ防止のために、「薬膳」という切り口で労働者にアプローチする手段を手に入れよう、という試みで、管理栄養士であり、国際中医専門員・国際中医薬膳師でもある羽田綾子先生に「疲労回復～秋バテに効く食材と薬膳－秋に気を付けたい生活養生」とのタイトルでご講演いただいた。現地とWEBのハイブリッド方式で開催され、最大76名の参加者を得た。

ご講演では、我々がよく耳にする夏バテとは胃腸や血行不良による諸症状が主であるが、秋バテは疲労(気虚:気が衰える)を中心とし、気を回復するために肺・脾(東洋医学による)に補気(気を補う)する食物を考えるのが基本とのことであった。そのため肺には白い根菜(大根、カブ、レンコン、山芋、など)を、脾には黄色くて甘いもの(かぼちゃ、柿、サツマイモなど)を取り入れ、ちょうど秋の旬のものについて紹介いただいた。

さらに、コンビニにある製品の組み合わせを多数紹介いただき、すぐに実践できる内容であった。

素晴らしいご講演をしていただいた羽田先生ならびにご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。次回はヨガをテーマとしており、引き続き多くの皆様の参加をお願いします。

(研究会連絡先: oh.omrs@gmail.com)

[関東地方会事務局より] 冒頭ウェビナー接続の不安のため、開始時間が30分遅れとなってしまいました。そのためご参加いただけなかった方もいらっしゃるものと思われまます。ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

### 多職種連携の会



能川和浩  
(千葉大学大学院)

多職種連携の会では、2023年10月28日に第33回日本産業衛生学会全国協議会

において自由集会を開催した。「多職種連携における課題を整理する」というテーマを設定し、産業保健に携わる各職種における課題のトピックの共有を行い、職種間の相互理解を深めることを目的とした。25名の参加があり、会場は満席となった。

最初に司会の能川から、日本の医療系教育機関における多職種連携教育の状況が紹介され、産業保健に関わる職種のカリキュラムに多職種連携が組み込まれるようになってきていることが話された。次に、世話人の飯田裕貴子先生(環境管理センター)から、参加型職場改善活動について、いままで当研究会が行ってきた活動事例をもとに紹介いただき、快適職場の実現と多職種連携について解説いただいた。

次に、最近の職場でのトピックについて、会場からテーマを募りディスカッションを行った。テレワークにおける安全管理と健康管理の課題や、職場での転倒対策の課題について、各職種の視点から様々な意見の共有がなされた。また参加者の活動経験から、貴重な示唆もあり、課題解決へのヒントも得ることができた。

今後も当研究会では、多職種連携をすすめるにあたって重要な「他職種」の専門性の相互理解が深まるようなディスカッションの機会を作っていきたいと考えている。会員の皆様の参加を心からお待ちしています。



## 関東地方会研究会報告

健康的な職場づくり研究会

大久保茂子  
(昭和大)

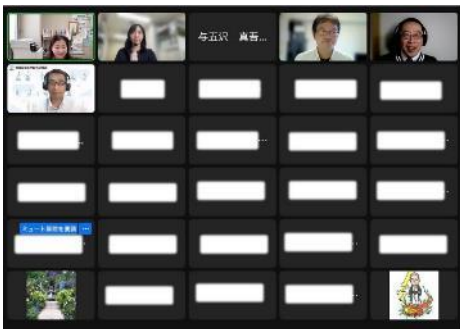
2023年10月21日(土) 13:00～15:40に第1回研究会を開催した。Zoomオンラインでの開催であったが、参加登録者103名であり、当日の参加者は61名であった。

メインテーマを「フィジカル面から取り組む職場の活力向上」、座長を山野優子先生(昭和大)、齊藤宏之先生(安衛研)として、体力および栄養の視点より講演を企画した。

「労働者の健康リスク軽減を目指す体力科学研究」として、松尾知明先生(安衛研)に講演いただいた。労働者の体力を身体的体力と精神的体力の双方から同時に捉え、健康リスクを評価する知見に関して、最新の研究内容と共にご紹介いただいた。また社会実装として、職域での具体的な遠隔指導介入の実例も挙げられた。

次に「職場給食における栄養管理」として、高橋東生先生(東洋大)に講演いただいた。職域における、食事摂取状況のアセスメントの基本的な考え方と留意点についてご紹介いただいた。食事摂取基準の活用については、食事摂取状況のアセスメントにより栄養素の摂取量を評価するところから始まるPDCAサイクルが重要であるとの内容であった。お忙しいところを多数ご参加いただき感謝申し上げます。

なお、次回は2024年2月3日(土)にオンライン開催する。テーマは「スマートウォッチを用いた産業現場でのフィジカル評価」と「働く人の身体活動実施を促す行動変容の理論と実践」である。学会員の皆様には是非ご参加いただきたい。



申し込みフォーム

<https://forms.gle/1XWxpYKSs87q1RHB8>



おめでとうございます

中央労働災害防止協会

緑十字賞 労働衛生

和田耕治先生

(広島大学大学院医系科学研究科  
公衆衛生学客員教授(非常勤))



## 第34回日本産業衛生学会全国協議会について

## 一步先の産業保健を切り拓け!

～過去から未来への懸け橋に～

会期：2024年10月3日(木)～5日(土)



企画運営委員長 宮本俊明  
(日本製鉄(株)  
東日本製鉄所)

このたび第34回日本産業  
衛生学会全国協議会を、2024  
年10月3日(木)から5日(土)の3  
日間、房総丘陵に位置する

「かずさアカデミアホール」を会場に開催することとなりました。地方都市での開催になりますが、改めてこのような機会を与えてくださった方々に心より感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の世界同時パンデミックへの対策は、新型インフルエンザ対策として従前から構えていた方針よりも数段上の対策が求められ、想像を超えた部分が多く、まさに一寸先は闇といえる状況でした。そのなかでも産業保健職は適切に情報を収集して事業場の対策検討に資することができた事例も多かったと思います。この情報収集には当学会も少なからず貢献できたことと自負しています。

また、2023年度および2024年度から本格化してきた化学物質に係る自律的管理という新たな展開は化学物質管理者の活動いかにかかっていますが、リスクアセスメントからのばく露最小化対策に大きな

変わりはありません。健康診断は「ばく露が一定程度以上ある場合に実施」となり、その要否判断や実施期間などは今後も産業保健職の知見が求められることとなります。

さらに、過労死等の防止対策推進は国民の願いであり、メンタルヘルス対策とともに産業保健のなかでの重要性は高いままであり、心理職も産業保健専門職として活躍することが増えてきました。加えて、毎年のように発生する自然災害時の関係職場での産業保健の面からの支援も重要となっています。最近の産業保健の現場でもウェアラブル端末、VRやAI等の活用が増えており、従来からの知見との併合を要する点では温故知新といえます。

このように変化が著しい産業保健の世界において、専門職として一步先を見据え、例え不明瞭な面があっても最適解を追求し、実践的で実効的な産業保健を切り拓く人材となるべく、切磋琢磨する場になることを願って今回のテーマとしました。それはこれまでの産業保健100年弱の歴史から学ぶことも多く、そこから未来につなぐ、人材育成を含めた懸け橋になりたいとの思いも込めてのものです。

多くの方のご参加を願って準備を進めてまいります。

<https://sanei-kyogikai2024.com/>

(コンテンツは順次公開して参ります)



**中央労働災害防止協会 緑十字賞 労働衛生  
受賞の声**

和田耕治  
(広島大学大学院 医系科  
学研究科 公衆衛生学  
客員教授(非常勤))

この度、緑十字賞をいただくことができ、改めまして、これまでご指導をいただきました、関東地方会の先輩方、同僚、友人、後輩の皆様にご礼を申し上げます。2023年11月からは、国立国際医療研究センターにて特任国際臨床研究推進部長を拝命しました。今後、組織として国立健康危機管理研究機構に発展の予定がありますが、健康危機においても産業保健の重要性を伝えられればと考えております。

せっかく紙面をいただいたので、残りは、未来志向のことについて書かせていただきます。

今後の人口構造の変化において産業保健の重要性はさらに増すのだろうと思います。

この約20年を私自身も産業医として活動してきたことを振り返ると、法令や国の施策が課題に対しての打ち手として示され、それを産業保健職が事業者とともに適切に実施するということが多くの課題の解決がされました。一方で、すでにそれらをこなすだけでも多くの時間とコストを日々費やしているという面があるようにも感じています。

今後において、残されている課題や新たに生じる課題に対応をするために、現在の産業保健活動のコストや労力がどのような価値を生んでいるのかの再評価や再検討は必要な時期にあります。健康診断の項目の見直しなどはその例でしょうか。また、施策を待つのではなく、課題認識のある人でゆるやかにでもつながって良好事例を共有して、それぞれで解決策を見つけ対応をしていくことが求められています。

今後、高齢化の中で、医療従事者の不足も想定されます。これから産業保健に関わっていただく方に産業保健のやりがいや価値をわかりやすく伝えていくこと、学会はそれを支援をすることが重要と考えています。受賞にあたり、皆様と産業保健の価値を一層高めていくことができればと、さらに気を引き締めております。

**研究室紹介**

昭和大学  
衛生学公衆衛生学講座  
山内武紀



本学は1928年に開校された昭和医学専門学校に端を発する。1946年には昭和医科大学に昇格し、1964年に薬学部設置に伴い校名が変更されて昭和大学となり、現在では医学部、歯学部、薬学部および保健医療学部を擁する医系総合大学となっている。

本学における衛生学公衆衛生学講座の歴史は古く、1946年に衛生学教室が、1954年に公衆衛生学教室が開設された。相互に協力しながら社会医学の教育と研究を担ってきた両教室は、名称変更・組織編成等を経て2018年に合併し、教員、大学院生等を含め30名以上が所属する衛生学公衆衛生学講座となり、旧公衆衛生学講座の小風 暁先生が主任教授を務めている。

教員はそれぞれ成人保健、高齢者保健、感染症疫学、産業保健等の研究テーマを持っており、講座として幅広く公衆衛生学上の課題に取り組んでいる。例えば、化学物質等の各種分析機器を活用した産業保健調査を実施していることは当講座の特徴の一つである。また、近年では専用の部屋を設け、匿名レセプト情報を活用した研究も実施している。これらの取り組みは時代の要請に答えながら少しずつ変わってきたものの、疾病の予防および健康の保持・増進を目的として、種々の課題を疫学的手法を用いてアプローチを行うことにより解決し、社会に貢献するという理念は一貫している。

当講座は医学部だけでなく他学部や医学部附属専門学校の教育にも携わっており、公衆衛生学・疫学・統計学等の講義および各種実習を担当している。医学部においては特に、学部5年生を対象とした公衆衛生学ゼミナールを通じてリサーチマインドの醸成を促し、優れた医師の養成を目指している。



## 通達・行政ニュース

山本健也(安衛研)

### [心理的負荷による精神障害の労災認定基準の改正](#)

心理的負荷による精神障害の労災認定基準が改正され、「心理的負荷による精神障害の認定基準について(基発0901第2号 令和5年9月1日)」が発出された。改正の概要は、「業務による心理的負荷評価表の見直し」として、具体的出来事に「顧客や取引先、施設利用者等から著しい迷惑行為を受けた(いわゆるカスタマーハラスメント)」「感染症等の病気や事故の危険性が高い業務に従事した」が追加され、また心理的負荷の強度が「強」「中」「弱」となる具体例を拡充(パワーハラスメントの6類型すべての具体例)が明記された。また、精神障害の悪化の業務起因性が認められる範囲を見直し、「悪化前おおむね6か月以内に「特別な出来事」がない場合でも、「業務による強い心理的負荷」により悪化したときには、悪化した部分について業務起因性を認める」とされた。また、従来専門医3名の合議により決定していた事案について、特に困難なものを除き1名の意見で決定できるようにする等、認定の効率化が図られている。

### [リスクアセスメント対象物健康診断に関するガイドラインの策定](#)

事業者による自律的な化学物質管理の一環として、労働安全衛生規則の改正により令和6年4月1日から施行となる「リスクアセスメント対象物健康診断」について、事業者、労働者、産業医、健康診断実施機関及び健康診断の実施に関わる医師等がこれらの健康診断の趣旨・目的を正しく理解し、その適切な実施を図ることができるよう、基本的な考え方及び留意すべき事項を示した「リスクアセスメント対象物健康診断に関するガイドライン」が策定され、通達された(基発1017第1号 令和5年10月17日)。リスクアセスメント対象物健康診断の実施の要否にかかる判断、実施する場合の頻度の目安や検査項目の選定方法等について記載されている。また、リスクアセスメント対象物健康診断を実施しない場合においても、定期健康診断において認められる所見等に留意することが望ましい旨等、記載されている。

## 理事会報告より

五十嵐千代(東京工科大)

### 2023年度 第2回(2023年7月22日開催)

#### 審議事項より抜粋

1. 理事長より2023年度から2024年度の理事会活動方針案が提示された。前体制の活動の進捗を踏まえた下記6項目から成る。「学会の目的と基盤を前提とした取組み」「学会の運営基盤の強化に関する取組み」「会員の満足度向上および自己実現、人材育成のための取組み」「学会運営の有効性向上のための取組み」「国内外の学会等との連携強化の取組み」「学会運営のリスクマネジメント改善の取組み」
2. 社会医学系専門医協会において、特例措置による社会医学系専門医・指導医の資格付与が開始され、資格取得を希望する者は、社会医学系専門医協会構成学会からの推薦が必要であることが報告された。2022年度の事業報告案、決算案について担当理事より説明があり承認された。
3. 振動障害研究会から研究会の規則案が提出され承認された。

#### 報告事項より抜粋

1. 四部会長会議として、2025年と2026年開催の全国協議会の担当について、中国地方会と四国地方会に依頼したことが報告された。
2. 産業医部会より第96回日本産業衛生学会での産業医部会企画シンポジウム、および産業医部会フォーラムにおいて活発な議論が行われ、共に盛況だったことが報告された。
3. 産業保健看護部会より部会で編集した産業保健看護職のための教科書『産業保健看護学—基礎から応用・実践まで—』の販売が開始され、好評を得ていると報告された。
4. 産業衛生技術部会より部会で作成した「化学物質の個人ばく露測定ガイドライン」(2015)のダイジェスト版を作成するための特別委員会が設置され、活動を開始したことが報告された。
5. 産業歯科保健部会より第96回日本産業衛生学会での産業歯科保健フォーラムにおいて「働く人々

- の多様化への対応～すべての人に口腔保健を～」をテーマに講演が行われ、盛況だったこと等が報告された。
6. 専門医制度委員会より登録者数(指導医523名 専門医166名 専攻医245名)が報告された。2023年度専門医資格認定試験の受験予定者は18名、2023年度第2回専攻医資格認定試験は、2023年11月18日に東京にて実施する予定である。
  7. 社会医学系専門医協会より第5回社会医学系専門医認定試験の試験問題作成委員は、基本プログラムeラーニングコンテンツの更新も担当することが報告された。
  8. 編集委員会よりJOHのインパクトファクター(2022)が3.0に上昇したことが報告された。
  9. 許容濃度等に関する委員会より許容濃度等に関する外部からの問い合わせが5件あったことが報告された。
  10. 産業保健看護専門家制度委員会より2023年6月18日に東京、大阪、福岡の3会場で実施された2023年度専門家制度登録者認定試験は109名が受験したことが報告された。
  11. 広報委員会より2023年5月1日に発行予定であったメールマガジン増刊号が正しく配信されなかったことについてのお詫びと、原因、対策が説明された。
  12. 政策法制度委員会より「小規模事業所への産業保健サービスの拡大を目指して」の提言を作成することとなり、意見交換が行われたことが報告された。第33回日本産業衛生学会全国協議会で小規模事業所に関するシンポジウムを開催する予定である。
  13. ダイバーシティ推進委員会より第96回日本産業衛生学会において「しなやかな学会活動-会員のしなやかさを発揮して学会活動の活性化を図る-」をテーマにフォーラムを開催し、盛況だったことが報告された。
  14. 研究会担当理事より前回の臨時理事会で承認された「第二次研究会改革」「研究会運用細則」「研究会運用に関するQ&A」の確定版が確認された。研究会改革の一環として、地方会内の研究会の活動実態を調査したことが説明され、その結果が報告された。
  15. 業務執行理事より、次の通り報告された。  
理事長より2023年6月21日に公益法人としての本学会の監督官庁である内閣府の立入検査を受けたことが報告された。  
副理事長より国際交流事業の一環である持続可能な産業衛生のためのアジア研究プロジェクトに5件の応募があり、3件を採択したことが報告された。  
経理担当理事より各会で参加費や研究費の助成制度を行いたい場合、諸問題もあることから、各会の要望を聞き、今後の運用について相談することになったことが報告された。
  16. 担当理事より次の通り報告された。  
臨床学会連携について、第96回日本産業衛生学会において、5件の合同シンポジウムが開催され、第55回日本動脈硬化学会総会・学術集会で合同シンポジウムが開催され、日本産業保健法学会第3回学術大会では、メインシンポジウムを開催する予定である。  
厚生労働省の事業への協力依頼について打診があった件が報告され、学会としての対応について検討した。  
日本医学会連合役員について新役員が決定し、本学会の川上憲人氏が理事となったことが報告された。
  17. 正会員数:8,771人(2023年7月10日現在)
  18. 学会名簿使用許可について、産業保健看護専門家制度委員会1件の名簿使用許可申請を許可したことが報告された。
  19. 研究会世話人交代について、中小企業安全衛生研究会、産業心理技術研究会、第一次労働安全衛生研究会の各代表世話人の交代が報告された。
  20. その他  
他団体での表彰について、中央労働災害防止協会の顕功賞に本学会から推薦した斉藤政彦氏、森晃爾氏、緑十字賞に本学会から推薦した田中昭代氏、野見山哲生氏の受賞が決定したことが報告された。  
100周年記念事業の全体構想策定のワーキングチームについて進捗状況が報告された。



## 幹事会報告より

中野愛子(日立製作所)

### 2023年度第2回幹事会 (2023年9月9日)

- 2023年度第1回幹事会議事録案について説明があり、承認がされた。体制図については再検討となった。
- 今後の研究会の在り方について五十嵐地方会長より、日本産業衛生学会が公益社団法人になり、数年かけて研究会の見直しがされていることの説明があった。これを受けて、関東地方会における研究会の在り方の見直しの方針について検討された。関東地方会幹事会として新たに基準をつくりゼロベースでの研究会を仕切り直し、継続の有無について検討していくことが承認された。
- 2024年度以降の地方会学会の運営について五十嵐地方会長より、開催する方針について説明がされた。これを受けて関東地方会学会の運営について検討され、幹事会が最終決定機関であり、群馬での関東地方学会開催をスタートとして地方会学会を育てていく方針が承認された。今後の課題としては、開催時期や、若手のまきこみについてがあげられた。
- 小橋幹事の代理で中野事務局幹事長より、第300回例会(5月12日開催)について盛況であったことの報告があった。
- 岩澤幹事より、第65回見学会(2023年9月8日開催)と第301回例会(2023年9月9日予定)について報告があった。
- 中野事務局幹事長より、第302回例会(2023年11月予定)の準備状況について報告があった。
- 福本幹事より、第303回例会(2024年2月予定)の準備状況について報告があった。
- 福本幹事より、関東産業医部会の研修会の準備状況について報告があった。
- 帆苺幹事より、関東産業保健看護部会の研修会(2023年7月9日・22日開催)について報告があった。
- 齊藤幹事より、関東産業衛生技術部会の研修について報告があった。
- 品田幹事より、関東産業歯科保健部会の研修(2024年2月予定)の準備状況について報告があった。

- 中野事務局幹事長より、幹事会と研修(2023年5、6、7、8月開催)について代理報告があった。会運営について、理事会で問題視されたことについて、改善を求めたことが伝えられた。
- 能川幹事より、第33回日本産業衛生学会全国協議会(甲府)会期中の2023年10月28日に、多職種連携の会の自由集会を開催予定であると報告があった。
- 中野幹事長より、電磁界下での作業による健康リスク研究会の代表世話人の先生に連絡しているが返事を頂けないため、引き続き研究会所属の先生経由で連絡を取っていると報告があった。
- 中野幹事長より、産業保健東洋医学研究会のオンライン研修(2023年9月5日開催)について代理報告があった。
- 齊藤幹事より、健康的な職場づくり研究会の第1回オンライン研修会(2023年10月21日予定)の準備状況について報告があった。
- 山瀧編集委員長より、関東地方会ニュース第48号(2023年8月10日発行)と第49号(2024年1月末予定)の準備状況について報告があった。
- 五十嵐地方会長より、理事会の報告があった。
- 山瀧企画運営副委員長より、第34回全国協議会の準備状況について報告があった。
- 諏訪園企画運営委員長より、第96回日本産業衛生学会の収支報告について黒字予定であることの報告があった。

### 2023年度第3回幹事会 (2023年12月2日)

- 中野幹事長より、追加修正した2023年度第2回幹事会議事録案について説明があり、承認された。
- 五十嵐地方会長より、資料に従って、第1回関東地方会学会準備状況について説明があった。岩澤幹事、宮本地方会選出理事から地方会学会開催時期や実行委員等の選任について意見が出された。2024年全国協議会(木更津)に幹事会が協力していくこと、地方会学会を担当する大学等の負担にならない運営をしていくことが確認された。
- 2024年度事業計画(案)について、五十嵐地方会長より、資料に従って、事業計画(案)について説明があった。研究会の見直しについては地方会で継続して検討し、学会本体の研究会の規程をもとに地方会の規程を策定する方針が説明された。資料に事業計画(案)の記載のない研究会について

- て、衛生管理者の集う会は2023年12月末をもって解散と報告があったこと、電磁界下での作業による健康リスク研究会は代表世話人と連絡の取れない状況が続いていることが報告された。田中幹事より、東洋保健東洋医学研究会の事業計画(案)について、2024年2月にヨガについての講演会と8月に研究会を開催予定であることが報告された。
- 2024年度予算(案)について、帆苺幹事より、資料に従って、予算(案)の説明がされた。宮本企画運営委員長より、物価と人件費の高騰から、全国協議会(木更津)の助成金の増額の申し出があり、五十嵐地方会長より、これまでの助成金額の2倍の400万円の計上の提案がなされ、承認された。事業計画(案)の予算を追加計上することを条件に承認された。
  - 第301回例会について、岩澤当番幹事より開催報告があった。
  - 第302回例会について、中野幹事長より2023年12月2日午後の開催予定とする報告があった。
  - 第303回例会について、福本当番幹事より2024年2月17日午後の日本赤十字看護大学での開催予定とする報告があった。テーマは精神障害の労災認定基準改定についてで、HPで周知する予定であると報告があった。
  - 福本幹事より、2023年11月11日に慈恵医大で実施された関東産業医部会研修会の開催報告がされた。また、2023年9月30日に蒲田医師会共催で実施された研修の開催報告があった。
  - 帆苺幹事より、2023年9月10日と10月22日に部会幹事会を開催したことが報告された。今後、全国協議会で研修や産業保健看護フォーラムの開催を予定。
  - 山野幹事より、2023年8月26日の関東産業衛生技術部会研修会の開催報告と、「個人ばく露測定ガイドライン」のダイジェスト版の作成報告があった。
  - 品田幹事より、2024年1月27日に関東産業歯科保健部会研修会が開催予定と報告があった。
  - 中野幹事長より、衛生管理者の集う会世話人の對木幹事から2023年12月31日をもって解散する意向の連絡を受けたことの報告があった。
  - 能川幹事より、2023年10月28日に多職種連携の会の自由集会の開催報告があった。
  - 中野幹事長より、電磁界下での作業による健康リ

スク研究会世話人との連絡が取れておらず、活動実績は不明であると報告があった。

- 中野幹事長より、2023年9月5日の産業保健東洋医学研究会開催の代理報告があった。次回研究会は2024年2月に開催予定。
- 山野幹事より、2023年10月21日の健康的な職場づくり研究会研修会の開催報告があった。次回研修会は2024年2月3日に開催予定。
- 中野幹事長より、2024年1月発行予定の関東地方会ニュースの進捗について代理報告があった。
- 中野幹事長より、第96回日本産業衛生学会の会計は適正に処理されたこと、関東地方会からの補助金が返却されたことの報告があった。諏訪園企画運営委員長より、学会本体からの補助金も返却されたことが追加報告された。
- 宮本企画運営委員長より、第34回全国協議会の準備状況について報告があった。テーマは「一歩先の産業保健を切り拓け！～過去から未来への懸け橋に～」とした。実行委員およびプログラム委員に、関東地方会各部会の先生方のご協力をお願いしたため、後日、ご依頼の連絡をさせていただくとの報告があった。

---

## 学 会 等 開 催 予 定

---

### 第303回関東地方会例会

日時:2024年2月17日(土) 13:30~18:00

会場:日本赤十字看護大学 201講義室

当番幹事:福本正勝(株式会社i・OH研究所)

### 第1回関東地方会学会

日時:2024年12月6日(金)・7日(土)

会場:メトロポリタン高崎

企画運営委員長:浜崎 景(群馬大)

### 関東地方会 第2回健康的な職場づくり研究会

日時:2024年2月3日(土) 13:00~15:10

開催方法:オンライン開催

### 第97回日本産業衛生学会

日時:2024年5月22日(水)~25日(土)

会場:広島国際会議場・中国新聞ビル(広島市)

企画運営委員長:真鍋憲幸(三菱ケミカルグループ)

---

[第34回日本産業衛生学会全国協議会](#)

日時:2024年10月3日(木)~5日(土)  
会場:かずさアカデミアホール(木更津市)  
企画運営委員長:宮本俊明(日本製鉄東日本-  
製鉄所)

[第31回日本産業精神保健学会](#)

日時:2024年8月24日(土)・25日(日)  
会場:産業医科大学ラマツィーニホール  
大会長:吉村玲児(産衛大)

[第83回日本公衆衛生学会総会](#)

日時:2024年10月29日(火)~31日(木)  
会場:札幌コンベンションセンター 札幌市産業  
振興センター  
学会長:玉腰暁子(北海道大大学院)

## 第13回日本産業看護学会学術集会

日時:2024年11月30日(土)・12月1日(日)予定  
場所:帝京平成大学中野キャンパス  
大会長:櫻井しのぶ(順天堂大)

## 第32回日本産業ストレス学会

日時:2024年12月13日(金)・14日(土)  
会場:ウインクあいち  
大会長:太田充彦(藤田医科大)  
後藤由紀(四日市看護医療大大学院)

※最新の情報は、各学会ホームページ等でご確認  
ください。

※掲載を希望される場合は事務局までご連絡くださ  
い。

## 編集後記

私がニュース編集委員を始めさせていただいたのが2010年。そして、2011年春に専属産業医を退職し独立した。当時はまだ独立系産業医は少なく、契約先の電話口や受付で、「産業医です」と普通にも通じないことが数知れずだった。「すみませんが、総務の〇〇様にお繋ぎいただけますでしょうか?」とお願いし、怪訝そうにやっと繋げていただいたものだ。しかし最近「産業医」という言葉がかなり一般的になり、通じやすくなったと肌で感じている。諸先輩方の並々ならぬご尽力が基盤となり、専門性の高い産業医活動を行う医師が増えたことが追い風となり、お陰様で独立して10年以上、概ね順調に独立系産業医として活動を続けてきている。私は学者・研究者の資質がなく現場志向で、50歳近くになってもベテラン感がないながらも、細々とニュース編集委員も継続させていただいている。産業医に関心を持つ医師が増え続けても淘汰されないよう、人生の折り返し点を過ぎても、企業・事業場の風土やニーズに即した活動を行える現場感覚を磨き続けられる産業医でありたいと、改めて気を引き締めている。(久保)

[第36号\(2017年8月\)](#)の編集後記で、家にシリケンイモリがやってきたことを記しました。あれから6年以上が過ぎましたが、イモリたちは二匹とも変わらず元気に水槽の中で過ごしています。それぞれ性格もあるようで、大柄で動きが早く、しかし餌への食いつきがうまくないのがチョコ、小柄で動作はゆっくり、餌に器用に食いつくのがマシュマロ、と名前も付けられています。

この二匹、普段は水の底でのっそり動き回ったり、時折何やら話でもしている風に顔を寄せ合ったりと、至ってのんびりとしているのですが、餌やりのときには様子が一変します。素早く食いつくも餌を逃すチョコ、その横で悠々と餌を口にするマシュマロ、それを横から奪いに来て足にまで食いつくチョコ、抵抗するマシュマロ、と大乱闘になってしまいます。少しでも穏やかに食べられるよう、まずこちらに食べさせてその間にそちらに、と都度工夫はするのですが、なかなかうまくいきません。

さて地方会ニュースは次号で50号となります。これまでの御愛顧に御礼申し上げますとともに、これからも息長くご愛読いただければ幸いです。(山瀧)

## 編集委員名簿

稲垣弘文、☆大久保靖司、小倉康平、萱場隆人、久保恵子、澁谷智明、谷山佳津子、照屋浩司、富永知美、中谷 敦、○能川和浩、原 美佳子、宮本俊明、◎山瀧 一、山野優子、山本健也、与五沢真吾

☆顧問 ◎編集委員長 ○副委員長 (50 音順)